



自然光を取り入れた階段室。



いろいろな活動のショーケースとなる1階エントランス。



南西側外観(写真:吉田写真事務所)。



明治大学創立130周年記念 和泉図書館

選評

明治大学創立一三〇周年を記念して計画された和泉キャンパスの新図書館は、既存校舎群との調和を視野に入れ、「正門」と正門正面に配置される「センタープラザ」さらには「知の庭」と呼ばれる新図書館の前庭との適切な連携を図るなど、キャンパスマスタープランと並行して計画されている。

「広がり」を促すランドスケープを実現するために採用された菱形の建築平面は、架構形式に沿って斜めに構えた書架配列により、書籍の背表紙が幾重にも折り重なって通路に顔を出し、書籍が人を迎えるような効果を生み出している。

また「ブックタワー」と呼ばれるガラス張りでショーケース化した「積層集密書庫」も、書籍の配列や表紙を積極的に見せる配架を工夫することなどにより、インテリアとしても本と接する楽しさの空間化に成功しており、魅力的である。

和泉キャンパスは一・二年生の

教育の場であり、この図書館は学生の日常の居場所となる「滞在型図書館」としての機能が重視されている。

このため、ここでは従来の図書館の基本機能を備えた上に、「コミュニケーション、プレゼンテーション、コラボレーション、リラクゼーション」など多様な機能が想定され、「賑わいから静寂へ」といった段階的な音のゾーニングが図られている。

一階のエントランス、サロンから二階へと続く「活動・交流」のラーニングコモンズとしての空間から、個人の「読書・研究・学習」を重視した静寂を要する空間を段階的に設定している。

このように平面的には「入口から奥へ」、立体的には「一階から四階へ」と進むにつれて、「動」から「静」に移行する空間構成は、開架方式がメインの図書館として合理的である。

一方、透明性が高いため、視覚的には平面的にも立体的にも緩やかに連続しており、多くの学生がそれぞれの快適な居場所を発見し、

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2015年で56回を数えます。

< 2015年 第56回 BCS賞受賞作品 >

あべのハルカス 大阪木材仲買会館 北九州市立戸畑図書館 サイエンスヒルズこまつ JPTタワー 静岡市清水文化会館 マリナート 資生堂銀座ビル Junko Fukutake Hall 鈴木大拙館 ダイビル本館・中之島 四季の丘 はあと保育園 明治大学創立130周年記念和泉図書館 ROKI Global Innovation Center -ROGIC- [特別賞] 上州富岡駅

建築主 より 今の時代に必要とされる新しい図書館と魅力あるキャンパスづくり

明治大学創立130周年の記念事業の一つとして、「人と人・人と情報を結ぶ“架け橋 (LIASON)”」をコンセプトにもつ和泉図書館の建設計画に着手した。

この図書館建設を機会に「学生たちの誇りとなる図書館」「記憶に残るキャンパスの原風景づくり」の実現を目指し、従来の図書館の枠を超えた今の時代に必要とされる新しい図書館と魅力あるキャンパスづくりを展開していくことを目標とした。

開館して4年経つが、学生や卒業生、地域の方々の図書館利用率は非常に高い。また各方面からの見学者も絶えず、未だに高い評価をいただいている。

図書館で友達と楽しく話をしながら学習する姿、グループで議論する姿、閲覧席で一人黙々と学習する姿、またキャンパス内広場で楽しくランチをしている姿などを目の当たりにすると、活気と賑わいのある魅力的な図書館とキャンパスになったと強く実感する。



学校法人 明治大学
調達部 施設課
菅 和禎
Kazusada Suga

設計者 より

キャンパスと図書館、人と人・人と情報を結ぶ架け橋

大学が掲げた新図書館の基本理念は「人と人・人と情報を結ぶ“架け橋 (LIASON)”」である。従来の図書館としての基本機能を備えた上で、多様な知的情報と人との交流拠点となりえる図書館を目指したものである。

自然光の柔らかな光、穏やかな空間のつながりにより、心地よく読書しやすい環境をつくる。暖かな木の天井・書架・キャレル、白いコンクリートの杉型枠化粧打ち放しが、人を優しく包みこむ。

斜めの書架配列は、本の背表紙が顔を出し、本が人を迎え、誘う。本に囲まれたラウンジ、見える積層集密書庫など「本に近い・本を見せる工夫」と、「人の活動が見えること」から、セレンディビティな知の連鎖を生む「人と情報を結ぶ架け橋」を目指した。

大学の皆さんと心通わせ言葉を交わし、匠の心に満ちた施工を得て、今、和泉図書館は、利用者で満ち溢れている。



株式会社
松田平田設計
取締役 設計統轄
馬渡誠治
Seiji Mawatari

施工者 より 三位一体により各々の知恵を出し合い、誰もが入ってみたいくなる図書館を実現

良いものを一体感をもってしっかりつくるという目標を共有し、大学キャンパス内の安全確保・近隣環境への配慮をするとともに施工技術を駆使し、別途工事を含めた各社との連携を密にして、2010年9月から着手し、2012年3月竣工までの約1年半の間に工程厳守で竣工することができた。

本実杉板型枠打ち放しコンクリートの型枠工事、ホワイトコンクリート工事の高品質施工

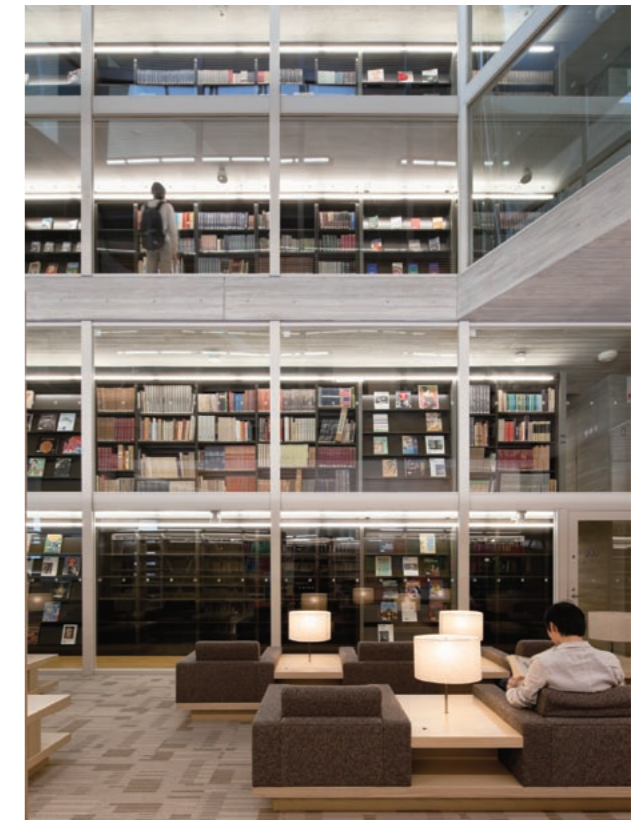
工の実現に向けて、細心の注意を払い精度を確保し、杉板のイメージ・木の優しさを再現することができた。交斜形状の木ルーバーの緻密な内装天井には木ルーバーを杉板打ち放し梁の精度を合理的に割り付け、木ルーバーユニットを斜交させ、また外装の大型フィン



清水建設株式会社
東京支店
建築第三部 工事長
作業所長
鈴木寿浩
Toshibhiro Suzuki



3階ラウンジ (写真：吉田写真事務所)。



2階積層集密書庫前ラウンジ (写真：吉田写真事務所)。



上/ライトリフレクターにより間接光を取り入れた3階閲覧スペース (写真：吉田写真事務所)。
下/2階コミュニケーションラウンジ (写真：吉田写真事務所)。

多様な利用の仕方をしていくことが一歩できて楽しい。特に一階部分は、ブックカフェやホール、ギャラリーなどにアクセスしやすいだけでなく、ガラス張りの空間にすることで、内部の活動を外部からも見通せるものとして実現させている。

このことによって、学生のみならず地域住民にも開かれた利用を促すなど、「入ってみたくなる街の図書館」として、地域にも大きく貢献している。

外観を特徴付ける流線形断面の「ライトリフレクター」は、奥行の

深さにより直射日光を防ぐ一方、柔らかな間接光を取り入れ、読書しやすい環境をつくり出している。さらにサイン計画、家具計画、色彩計画、照明計画など、「よりよい図書館にしたい」という願いの下に、長きにわたって調査研究を積み重ねてきた熱意ある図書館員を筆頭に、建築主であり管理者でもある大学、設計者、施工者が一体となった、きめ細かく丁寧な協同作業により優れた成果を生み出している。

【選考委員】
五十嵐太郎・栗生明・山本嘉彦

計画概要

建築主：学校法人 明治大学

設計者：(株)松田平田設計

施工者：清水建設(株)

所在地：東京都杉並区永福1-9-1
竣工日：平成24年3月31日

敷地面積：53,237.65㎡
建築面積：2,644.87㎡
延床面積：8,856.92㎡

階数：地上4階
構造：鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造